



# 東日本大震災と安全保障の基盤

## 元東北方面総監部幕僚副長（東日本大震災当時） 立花 尊顕様

### 卓話者紹介

土居 岩生会員

1957年 4月19日生まれ。（福岡県出身）  
 1999年 1等陸佐に昇任、タイ王国防衛駐在官  
 2004年 第43普通科連隊長兼都城駐屯地司令  
 2005年 第8次イラク復興支援群長  
 2006年 統合幕僚監部運用部運用第2課国際協力室長  
 2008年 第7師団司令部幕僚長  
 2010年 陸将補に昇任、東北方面総監部幕僚副長  
 （在任間、東日本大震災災害派遣活動に従事）  
 2012年 第4代自衛隊情報保全隊司令  
 2014年 退職

自衛隊の役割・任務は、1. 国土・領海・領空を守ること、2. 他国の平和維持のための国際貢献、3. 大規模災害時における災害派遣、この3つです。立花さんは東日本大震災の時には陣頭指揮を執り、この3つを全て経験した方です。

### 東日本大震災の特性

特性の1つ目は、被害が甚大であり、地震よりも津波による被害が大きかったことです。当日、私は休暇で仙台市内におりました。ビル倒壊の危険を感じ外に出ると、道路はトランポリンの上で弾んでいるような感じがするほどの激しい揺れでした。しかし、周囲に倒壊した家はなく、地震による被害はそれほどでもないと感じました。ところが、指揮所に戻り、ヘリコプターから届く映像を確認すると、津波が町を襲い、気仙沼では一面火の海になっていました。さすがに足が竦み、津波被害の大きさを初めて実感しました。

2つ目は原発との複合災害であったことです。これはあとで話します。

3つ目は、自治体の一部機能の喪失です。建物が津波によって破壊され、市や町の職員も亡くなりました。災害対処の第1義的な責任は市町村にあります。そこが被害を受ければ、当然被災者支援にも大きな影響が出ます。この失われた機能を補てんするために、自衛隊も支援しましたが、十分ではありません。民間、ボランティアの支援の重要性をあらためて感じました。

### 自衛隊の活動の特性

まず、自衛隊が、創設以来初めて、10万人の陸海空統合部隊を編成し派遣活動に従事したことです。

2つ目は日米共同での対処です。在日米軍、空母を含めた米海軍、そして沖縄の海兵隊も海外での訓練を中止し、直ぐに東北へ駆けつけてくれました。勢力は約26,000人にもなります。危機に瀕したとき、真っ先に来てくれる。有難いと思いました。

3つ目は自衛隊が最後の砦という意識で活動したということです。指揮官からは「すべては被災者のために」と。食事や入浴などもろろのこと、自分の家族も後回しで被災者優先です。まさに「すべては被災者のために」でした。そして、その言葉が我々10万人が心一つにできた精神的支柱でした。

自衛隊の具体的な活動を映像で紹介します。人命救助、津波の水やがれきのため、初めはヘリでの救助が主体になりました。行方不明者捜索、津波が運んできた瓦礫や土を掘り返すなど、行方不明者のご家族の気持ちに配慮して徹底して捜索を続けました。巡回診療、御遺体の搬送、パトカーなど緊急自動車への燃料支援、瓦礫の除去、道路の整備、防疫支援、生活支援（給食・給水・入浴）なども行いました。全国から集まる救援物資には色々なものが混在した段ボールが多くありました。倉庫で仕分けし、支援物資のカタログを作成し、各避難所への配布も行いました。民間やボラン

ティアの協力が必要です。それがあれば、自衛隊は自衛隊にしかできない活動にもっと力を注ぐことができます。

### 震災対処の経験から学んだ教訓

#### ① 危機を想定し、実践的な訓練が重要であること

最悪を想定し準備をしておくという事です。原子力災害対処計画があり、訓練も実施されていました。しかし、「原発安全神話」があったために、それらは極めてルーズなものだったとしか言いようがありません。計画内の自衛隊の任務はモニタリングと住民の避難支援でした。しかし、実際に原発事故が起こると、普段は駐屯地内の火災に対応するための駐屯地消防隊まで駆り出され、原子炉への放水を行いました。またヘリからの放水も初めての試みでした。訓練など一度もしたことはありません。緊急に放射線遮断の装備を装着しましたが、十分とは言い難い状況でした。

最悪の状態をリアリティをもって想定し、準備を行うことが極めて重要であると思います。そして、このことが自衛官のリスクを軽減することにもつながるのです。

#### ② 自助・共助が大切であること

まずは自分の身は自分で守るということです。「釜石小学校の奇跡」「大川小学校の悲劇」と言われます。釜石の子供は99.8%が助かりました。副校長の「点呼などどうでもいい、逃げろ！」の言葉で救われました。しかし、それと対照的に大川小学校では、多くの児童が亡くなりました。

#### ③ 公的機関のみならず民間との協力が必要である

公的機関のみならず民間企業やボランティアの知識や能力も重要だと感じました。阪神淡路大震災以降、省庁間の協力関係は整備されました。民間との連携は今後の課題だと思います。また、ボランティアの力を発揮するためには指揮機能の整備が急務です。指揮機能は災害ボランティアセンターが担っていますが、災害時の人員増強計画などの整備不十分だと思います。

以上の教訓はわが国防衛の基盤でもあります。まず、自分の国は自分で守る。危機を想定し、準備する。官民が相互に協力することです。

最後に大川小学校の児童から「日本を助けて下さい」という手紙をもらいました。こんな小さな子供に二度とこのような心細い思いをさせてはいけなと思います。震災を生き残った者として努力して参ります。

閉会点鐘

小田 孝志会長

### 松浦 久晴元会員よりメッセージ

昨年12月をもって突然クラブを退会してしまいました。クラブの方々とお話しし、気軽に付き合いたいただきましたことを心より御礼申し上げます。

クラブ創設以来20数年にわたり、皆出席でしたが、やはりこれはいつまでも続くわけではありませんでした。

私自身は、クラブおよびロータリーの諸活動にネガティブさは全くありません。まして、クラブの方々とも明るい付き合いをいただき、奉仕活動にも微力ながら参加をいたしてまいりました。これが親睦につながります。そのような自己解釈で、いつのまにか年月がたちました。やはり年齢のせいでしょうか。気力・体力に自信が影をさし、会合などにてご同僚の方々にご迷惑をおかけしてはと、自己認識をいたしまして、この度このような、全く身勝手なりタイアということに心を決めました。

なにとぞ、クラブの方のご寛容なご理解をいただければ、そのお気持ちをありがたくお受けいたします。誠に簡略ながら、事務局に本ご挨拶をお届け申し上げます。

2016年2月1日 松浦 久晴